

3. 打出に築かれた2つの前方後円墳 ～金津山古墳と打出小槌古墳～

春日町にある金津山古墳は、古墳時代中期後半(5世紀後半)の前方後円墳です。鎌倉時代～室町時代の田畑の開発で前方部が削られてしまったため、後円部だけが現存しています。この古墳には、阿保親王が打出の



村人が困った時のために黄金を埋めたという伝説があり、「金津山」の名前の由来となっています。

実は、この付近にはもう一つ前方後円墳がありました。それは打出小槌古墳(打出小槌町)で、室町時代の田畑の開発により墳丘がすべて削られてしまい、地上には姿がまったく残っていません。しかし、発掘調査で古墳の濠の跡

金津山古墳
(通常は入ることができません)

や、たくさんの埴輪の破片が出土し、古墳時代中期末(5世紀末)に築造された全長約60mの前方後円墳であったことが明らかとなりました。この古墳には、金津山古墳に葬られた人物に連なる地方豪族が葬られていると考えられています。

これら2つの前方後円墳と阿保親王塚古墳は、いずれも打出地域の地形をなす翠ヶ丘台地の上に立地しており、古墳時代には、この台地が豪族の墓をつくる神聖な場所であったと考えることができます。



鶏形埴輪(金津山古墳出土)



人物埴輪(打出小槌古墳出土)

4. 阪神間モダニズムのおもかげ ～松山家のお屋敷跡～



「松山家住宅松濤館」は現在図書館打出分室に

現在、図書館打出分室や小槌幼稚園のある場所には、もともと、金庫・仏具商の松山與兵衛氏のお屋敷がありました。小槌幼稚園付近にあった母屋は1945(昭和20)年の阪神大空襲で焼失しましたが、美術品を収蔵していた石造りの建物は残り、今は図書館打出分室となっています。この建物は、大阪の御堂筋にあった銀行を1930(昭和5)年に移築したもので、2008(平成20)年には「旧松山家住宅松濤館」として国登録有形文化財に登録されました。

このほか、敷地東側の石垣(塀)や打出教育文化センターの日本庭園も松山家のお屋敷の名残で、日本庭園には当時の石造物なども残っています。



打出教育文化センターの日本庭園



日本庭園内にある打出の小槌をもつ大黒さまの石像

トピックス

阪神間で最も古い?! 約2万年前の遺跡

打出駅周辺には、さまざまな時代の歴史文化遺産がありますが、このあたりの歴史は約2万年前の旧石器時代までさかのぼります。当時は氷河期で、海水面は現在より100m以上低く、海岸線は紀淡海峡よりさらに沖にまで後退していました。つまり、大阪湾は存在しておらず、当時の芦屋は海岸から遠く離れた内陸の奥地であったということになります。

打出小槌町の地中に眠る打出小槌遺跡では約2万年前までさかのぼるナイフ形石器が出土していることから、旧石器時代から芦屋で人が生活していたことがわかります。これは、芦屋市内だけでなく阪神間で最も古い遺跡です。



2万年前のナイフ形石器
(打出小槌遺跡出土)

打出の小道プロジェクト

このプロジェクトは、歴史情緒ある施設をリノベーションするとともに、隣接する公園と近代の日本庭園を一体的に整備することで、地域のかたがたに親しまれる公共空間を再構築し、小道界隈のにぎわい拠点とするエリアマネジメントの取り組みです。

昨年10月のオープニングイベントを皮切りに、打出公園&日本庭園リニューアルワークショップ(全3回)を開催し、公園等の計画案を策定しました。

これから武庫川女子大学と連携して、打出教育文化センター貸室等の利活用ワークショップを5月と7月に行い、来年度に施設改修を経て、令和6年の春にリニューアルオープンを目指します。



打出教育文化センター貸室等の利活用ワークショップ

- 日時 5月22日(日)午後2時～4時
 - 会場 打出教育文化センター(大会議室)
 - 定員 20人程度
- ※申込方法、ワークショップの詳細は市ホームページでお知らせします。



問い合わせ
マネジメント推進課 ☎38-2172